

インフォメーション・コーナー

会 告

平成 21 年度農業農村工学会大会講演会の開催について 	74
平成 21 年度農業農村工学会大会講演会企画セッション	
「オープンタイプ」の発表者を募集します	75
土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「頭首工」発行のお知らせ	76
平成 21 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について	76
学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!	77
「農業農村工学会学術基金」の募金について	77
農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのごお願い	77
身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!	
「水土の知（農業農村工学会誌）」平成 22 年秋季～冬季の表紙写真の募集	78
「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております!	79
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のごお願いと国際ジャーナル	
「Paddy and Water Environment」について	80
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のごお願いと	
2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ	81
第 47 回畑地灌漑研究集会の開催について（第 1 報） 	81
ICID 第 5 回アジア地域会議における発表論文の募集について（第 3 報）	82
学会記事	83

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

 のマークは、技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 21 年 8 月 4～6 日	大会運営委員会	平成 21 年農業農村工学会大会講演会 		つくば市	76 巻 12 号 77 巻 3 号
平成 21 年 9 月 3 4 日	畑地整備研究部会	第 47 回畑地灌漑研究集会 	地域の特徴を活かした畑地 農業の展開	岐阜県内	77 巻 3 号

第 77 巻第 4 号予定

展望：ストックマネジメントからアセットマネジメントへの道程：野中資博

小特集：ストックマネジメントの最前線 - 水路工のストックマネジメントの実施へ向けた諸課題

実効的なストックマネジメントの実施へ向けた諸課題：野々村圭造ほか

農業水利施設のストックマネジメントの実務的な課題と対応：伊納昭彦

用水路システムの水理・水利用性能に関する機能診断および機能保全対策：樽谷啓之

コンクリート水路の劣化予測手法の実用化：竹沢良治ほか

農業水利施設ストックマネジメント事業の総合評価：國光洋二ほか

通水状態での農業用水路トンネル点検手法の開発：藤原鉄朗ほか

技術リポート

北海道支部：農業水利施設におけるストックマネジメント手法を用いた修繕対策（補修）の決定：三木善知ほか

東北支部：農業用開水路における流量計の設置位置の検討：関口美穂ほか

関東支部：農業用道路周辺における環境に配慮した取組み事例：水野智仁ほか

京都支部：ダブル（W）エレメント置換推進工法の計画と施工：上田耕治ほか

中国四国支部：浮島型リン吸着コンクリートのダム湖への施工事例：阿部公平ほか

九州支部：海水が混入する地下水域における灌漑貯水池の調査設計：仲村 哲ほか

小講座：布製型枠：正城孝幸

私のビジョン：永吉武志

平成 21 年度農業農村工学会大会講演会の開催について

技術者継続教育プログラム認定申請中



平成 21 年度農業農村工学会大会講演会は、平成 21 年 8 月 4 日(火)、5 日(水)、6 日(木)の 3 日間、茨城県つくば市の筑波大学大会館で開催されます。現地見学会は行いません。

本報では開催要領、参加申込みなどについてお知らせします。講演会での講演申込みについては、本誌 2009 年 1 月号会告を、会場設備やポスター発表詳細等については続報(6月号)をご覧ください。

なお、講演発表を申し込まれた方も、別途、参加の申込みが必要です。

ご注意いただきたい点

平成 21 年 6 月 30 日(火)までに参加申込みをいただき、7 月 31 日(金)までに参加費の入金が確認された場合に限り、参加費の割引があります。

6 月 30 日(火)までに予約参加申込みをいただいた方全員に、CD ROM 版講演要旨集を、大会の約 2 週間前までにお届けします。

印刷製本版の講演要旨集は、本大会では 6 月 30 日(火)までにお申し込みいただいた方の人数分しか作成しません。締切日以降の申込みはできません。

プログラム、学会賞受賞者紹介、全講演・ポスター発表の概要(200 字)などを集録した大会概要集は、大会当日、受付にて参加申込み者全員にお渡しします。

参加申込みは、ホームページ(または FAX)で受け付けます。農業農村工学会のホームページをご参照のうえ、ご利用下さい。

1. 開催要領

受付開始：9:00~

- (1) 開会宣言：8 月 4 日(火)9:30~9:35
会 場：筑波大学大会館講堂
茨城県つくば市天王台 1 1 1
- (2) 開会式典および表彰式：8 月 4 日(火)14:00~17:00
会 場：筑波大学大会館講堂
- (3) 交流会：8 月 4 日(火)18:30~20:30
会 場：オークラフロンティアつくば アネックス
1F 大宴会場「昴」の間
茨城県つくば市吾妻 1 丁目 1364 1
- (4) 講演会：8 月 4 日(火)、5 日(水)、6 日(木)
会 場：筑波大学大会館
茨城県つくば市天王台 1 1 1
詳細は、プログラムとともに 6 月号に掲載する予定です。
- (5) ショートトリップ：8 月 5 日(水)、6 日(木)
参加費無料、当日先着順 1 回 40 名までを予定しています。

農村工学研究所等への見学を予定しています。詳細につきましては、学会誌 6 月号をご覧ください。

2. 参加費用

(1) 大会講演会参加費用と内容：次の表をご覧ください。

	予約申込		当日申込			
	一般	学生	一般	学生		
CD ROM 版講演要旨集	全員配布		当日配布			
大会概要集	当日配布		当日配布			
申込締切日	6 月 30 日(以降は受け付けません)			大会当日		
支払締切日	7 月 31 日			大会当日		
印刷製本版講演要旨集	希望者のみ		なし			
	一般	学生	一般	学生		
参加費	¥11,000	¥9,000	¥5,000	¥3,000	¥7,000	¥5,000

(2) 交流会参加費 一般 6,000 円 学生 3,000 円

3. 申込方法

参加申込みは、ホームページ(または FAX)にて受け付けます。業務簡素化のため、ホームページからの申込みにご協力下さい。なお、電話での申込み・問合せはご遠慮下さい。参加申込み後に変更、取消が生じた場合は、参加申込書(FAX 用)の連絡事項欄に「変更」または「取消」と大書きし、修正事項を明記して FAX にて速やかにお知らせ下さい。

(1) ホームページによる申込み

農業農村工学会のホームページからお入り下さい。

<http://www.jsidre.or.jp/tsukuba-taikai/>

(2) FAX による申込み

下記にてお申し込み下さい。

(株)ブランドウ・ジャパン気付 農業農村工学会大会
受付係

FAX 03 5470 4410

4. 支払方法

クレジットカードによるお支払いに対応いたします。

お振込みの方は、7 月 31 日(金)までに下記の指定銀行口座へお振込み下さい。この場合、振込手数料は振込人の負担となります。

振込先：ゆうちょ銀行

店 名：〇一八(読み：ゼロイチハチ)

店 番：018

普通預金：普通預金

記 号：10110

(郵便局から振込む場合のみ、この記号が必要です。)

口座番号：(銀行から振込む場合)6505822

(郵便局から振込む場合)65058221

口 座 名：株式会社 ブランドウ・ジャパン

* 振込み手数料はご負担願います。

*請求書到着後、1週間以内でのお振込みをお願い申し上げます。

*振込人名は、申込本人名として下さい。

6月30日(火)までに参加申込みされ、7月31日(木)までにご入金がなかった場合には、大会当日の受付にて当日申込み扱いの参加費を申し受けます。

会社経費・公費等によるお支払いにも対応いたします。

原則として参加費等の払戻しはいたしません。

5. 講演要旨集の事前送付について

6月30日(火)までに参加申込みをされた方全員に、CD-ROM版講演要旨集を、大会の約2週間前までにお届けします。

印刷製本版の講演要旨集を申し込まれた方には、大会当日、受付にてお渡しします。ただし、参加申込みをされ、7月31日(木)までにご入金がなかった場合には、大会当日の受付にて当日申込み扱いの参加費と印刷製本版講演要旨集の差額の合計(一般13,000円、学生9,000円)を申し受けます。また、事前に送付を希望される方は、参加申込みの際にその旨、ご明記下さい。1部につき500円の送料をいただいたうえで、大会の約2週間前までにお届けします。

6. 昼食

大学食堂は混雑が予想されますので、弁当の予約を受け付けます。

弁当は、1食800円(お茶付き、消費税込み)です。参加申込み用紙に必要事項を記入しお申し込み下さい。

7. 託児室の利用について

本大会では専門のベビーシッターによる託児室を会場の和室に設置いたします。利用料は無料です。ただし、保険料、昼食、おやつなどの費用は利用者負担となります。利用を希望する方は、参加申込み用紙に必要事項を記入し6月30日(火)までにお申し込み下さい。なお、締切は厳守して下さい(締切日以降の受付は、ベビーシッターの手配ができなくなります。また、詳細な利用概要については事務局までお問い合わせ下さい)。

8. 宿泊等の斡旋

本大会では、宿泊等の斡旋は行いません。

9. 会場までの交通案内 (URL <http://www.tsukuba.ac.jp/access/index.html>)

(1) 開会式・講演会：筑波大学学生会館

バス：つくばエクスプレスつくば駅前つくばバスセンター1番乗り場 筑波大学循環バス乗車、バス停“大学会館前”下車：右回り約7分、左回り約18分)、運賃260円です。講演会の開始、終了時間に合わせ、1便程度の臨時バスの増便を行います。

タクシー：つくばエクスプレスつくば駅前つくばバスセンターから約5分

自家用車の駐車場：来訪者専用の駐車場は数台分しかございませんので、公共交通(鉄道、バス等)をご利用下さい。

(2) 交流会：オークラフロンティアつくば アネックス 1F 大宴会場「昴」の間
茨城県つくば市吾妻1丁目1364-1
つくばエクスプレスつくば駅下車し、「A3」出口から徒歩2分。

10. 問合せ先

(1) 参加申込みに関する問合せ

(株)ブランドウ・ジャパン

農業農村工学会大会受付係 担当：綿引智成

〒105-0012 東京都港区芝大門2-3-6 大門アーバニスト401

☎03-5470-4411 FAX 03-5470-4410

E-mail: tomonari_watahiki@nta.co.jp

(2) 大会全般に関する問合せ

平成21年度農業農村工学会大会運営委員会事務局

〒305-8573 茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学大学院システム情報工学研究科社会システムマネジメント専攻 吉野邦彦

☎029-853-5005 FAX 029-853-5070

E-mail: sky@sk.tsukuba.ac.jp

または、

〒300-0393 茨城県稲敷郡阿見町中央3-2-1

茨城大学農学部地域環境科学科 黒田久雄

TEL&FAX 029-888-8602

E-mail: kuroda@mx.ibaraki.ac.jp

11. 運営委員会

委員長 佐藤政良

筑波大学生命環境科学研究科生物圏資源科学専攻

平成21年度農業農村工学会大会講演会 企画セッション「オープンタイプ」の発表者を募集します

平成21年度農業農村工学会大会講演会(平成21年8月4~6日)では、例年のように「企画セッション」を開催します。ついては、次の企画セッション(オープンタイプ)の発表者を募集いたします。

企画テーマ：PAWEES および農業農村工学分野の海外活動状

況と今後の展開

オーガナイザー：国際水田・水環境工学会(PAWEES)

松野 裕

申込・問合せ先：☎0742-43-1511 FAX 0742-43-1593

E-mail: matsuno@nara.kindai.ac.jp

この企画セッションで発表を行いたい方は3月19日(木)までにオーガナイザーにコンタクトして下さい。なお場合によっては締切を早めることもあります。

企画セッションの開催主旨は学会のHPに掲載しておりますのでご覧下さい。

土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「頭首工」発行のお知らせ

この度、土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「頭首工」が平成21年2月20日に発行されましたので、お知らせいたします。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込み下さい。

なお、主要改定内容は、次のとおりです。

「耐震設計の手引き」を踏まえた頭首工の設計における耐震設計の考え方
環境との調和に配慮
関連技術基準類の改定に係る見直し
詳しくは、農業農村工学会誌第77巻4号(平成21年4月発行)に改定の趣旨を掲載いたしますので、ご参照下さい。

書籍名...土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「頭首工」

価格...5,800円(消費税内訳,送料学会負担)

規格...A4判 約680ページ

申込方法

I. 役所等で、公用として購入される場合

FAXかE-mailでお申し込み下さい。様式は問いません。
ご希望冊数,送付先住所,請求書の宛名をご記入下さい。

II. 個人,会社で購入される場合

現金書留:書籍代金と,書籍名,冊数を書いた文書をご同封下さい。

郵便振替(00160 8 47993):振替用紙の通信欄に書籍名,冊数をご記入下さい。

申込先

〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4

(社)農業農村工学会事務局 河合あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E-mail: maki@jsidre.or.jp

平成21年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について

学術基金運営委員会

農業農村工学会では、平成3年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施してまいりました。

平成21年度は、規程第4条(1)の「特定の分野および学術的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業農村工学の国際交流の促進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページで申請書をダウンロードして、E-mailで学会事務局あてお申し込み下さい。

記

1. 援助の対象

農業農村工学会の会員(学生会員を含む)、または会員により構成されるグループ

2. 援助方針

(1) 農業農村工学に関する特定の分野および学術的分野の調査・研究の推進に寄与と思われる研究について援助する。

(2) 平成21年度中(平成21年4月から22年3月)に海外で開催される国際学術会議への出席費用の一部を援

助する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。

ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていなくても、申請は受け付ける。

この場合は受理を条件として援助の可否について決定を行う。

(3) 若手研究者の研究に対して援助する。

3. 1件当たりの援助金の目安

1件15万円程度を限度とする。

4. 申請締切 平成21年4月30日(木)

5. 報告の義務

援助を受けた者は、調査・研究、または会議の報告書を提出し、その原稿は学会誌に掲載される。

6. 申込み・問合せ

〒105 0004

東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3F

農業農村工学会 学術基金運営委員会

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E-mail: suido@jsidre.or.jp

学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!
行事企画委員会
技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を平成 18 年 11 月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間 10 CPD ポイント、また、通信教育で最大年間 18 CPD ポイント取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の学会会員で、かつ CPD 機構会員の方は、農業農村工学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) にある参加申込書に必要事項を記載してメール (E-mail : cpd@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX(03 5777 2099)でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 事務局

機構の運営委員会内部に設置する部会および継続教育部が担当します。(☎03 5777 2098)

4. 内 容

問題は 3 カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回 10 問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に送信していただきます。

採点の結果、7 割以上正解で 1 CPD ポイント、満点で 1.5 CPD ポイントが取得でき、機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

5. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成 3 年 4 月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成 19 年度までに 46 件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000 円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000 円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140 2 54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録について

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「学術的見地から緊急調査が必

要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方は事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2 年毎更新)に記

載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以下のとおりです。

調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。

派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2~3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03 3435 8494、E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!

「水土の知(農業農村工学会誌)」平成22年秋季~冬季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成22年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

趣 旨

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したことに起因して、水を制する、水を利用するための土木的施設が数多く造られてきました。それら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、今も過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えています。また、それぞれの機能を発揮するとともに、年月を重ねることでその地域の自然や文化にとけ込み、その景観を構成する要素として不可欠なものもあります。それが大規模プロジェクトで建設されたものでなくとも、私たちが調査・研究・事業の対象としている農村地域には、規模に違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま、日頃何気なく見過ごしているかもしれない水利遺構とそれを含む景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録いただき、広く学会員にご紹介下さい。特に今回は、「秋から冬」が感じられる「水利遺構」の写真を募集いたします。

記

1. テーマ

「水利遺構：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」
(昨年と同様)

2. 対象巻号

学会誌第78巻1~3号および10~12号(平成22年1~3月号および10~12月号)

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFF モードに設定)撮影して下さい(サイズは六ツ切)。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 平成21年3月31日(秋季~冬季の写真)

6. 審査

審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。

7. 結果発表

学会誌第78巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成22年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金(1点につき3万円)をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History(表紙写真由来)」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History(表紙写真由来)」をご執筆頂きます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用権

採用作品の使用権は(社)農業農村工学会に属します。

11. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意下さい。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる(花などの情緒物に埋没しない)、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしないことが採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ(フィルム、使用カメラ等)、対象物の固有名詞(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明)を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4

(社)農業農村工学会
農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494
E-mail : suido@jsidre.or.jp

「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 77, 78 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4 判 1,500 字以内)	原 稿 締 切 (刷 上 り 4 ページ厳守)
77 巻 4 号 ストックマネジメントの最前線	公募終了	
5 号 地域色豊かな自治体の独自事業(仮)	公募終了	
6 号 平成 20(2008) 年岩手・宮城内陸地震による農地・農業用施設の被害報告(仮)	公募なし	平成 21 年 3 月 31 日
7 号 霞ヶ浦周辺と利根川下流域の農業農村(仮)	公募なし	平成 21 年 4 月 15 日
8 号 食料自給率向上に向けた農業農村工学技術(仮)	平成 21 年 3 月 16 日	平成 21 年 4 月 30 日
9 号 地域バイオマスの利活用(仮)	平成 21 年 4 月 15 日	平成 21 年 5 月 29 日
10 号 学会創立 80 周年記念企画(仮)	公募なし	平成 21 年 6 月 30 日
11 号 農業用排水施設等の(大規模)災害に対する備えと、被災時の復旧工法と支援について(仮)	平成 21 年 6 月 15 日	平成 21 年 7 月 31 日
12 号 地域資源としての小規模灌漑施設のマネジメント(仮)	平成 21 年 7 月 15 日	平成 21 年 8 月 31 日
78 巻 1 号 鳥獣害被害の状況と対応策(仮)	平成 21 年 8 月 14 日	平成 21 年 9 月 30 日
2 号 農業水利施設におけるリスクマネジメントの取組み(仮)	平成 21 年 9 月 15 日	平成 21 年 10 月 30 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

ます。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4

(社)農業農村工学会 学会誌編集委員会 へて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E mail : henshu@jsidre.or.jp

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

77 巻 8 号テーマ「食料自給率の向上に向けた農業農村工学技術」(仮)

近年、わが国における供給熱量ベースの総合食料自給率は 40% と横ばいで推移しており、主要先進国の中で最低の水準となっています。

役割を明示し、官民を挙げて関係者一体となった計画的な取組みを推進することとされ、平成 27 年度の食料自給率の目標を供給熱量ベースで 50% (当初は 45%) と定めています。

昭和 40 年度には 73% であった同自給率は、高度経済成長期を経て国民の食生活が多様化し、消費品目の構成も大きく変わってきたことなどが主な要因となり、食料自給率の低下傾向が続いてきました。

同基本計画では、食料、農業および農村に関し総合的かつ計画的に講ずべき施策として、「食料の安定供給の確保」、「農業の持続的な発展」、「農村の振興」、「団体の再編整備」が掲げられています。これらの中で、特に「食料の安定供給の確保」、「農業の持続的な発展」の施策においては、優良農地の確保と有効利用、農業生産基盤の整備や農地・農業水利施設等の適切な更新・保全管理など、農業農村工学が果たすべき使命はきわめて大きいといえます。

一方、昨今の輸入食料品等の薬物混入問題など、食の安全に対する国民の意識は変わってきています。また、世界的な人口増や開発途上国の経済発展等により、中長期的には世界の食料事情も逼迫する可能性があると思見込まれています。

全国各地には、多様な農業生産の形態とそれに関する課題があり、これらに対して農業農村工学の技術を活かしたさまざまな取組みを行ってきていると考えられることから、本小特集では、これら技術に関する情報の共有を図るとともに、食料自給率の向上に向けこれらの取組みをさらに推進していくために、これまでの農業農村工学技術のありようの総括、技術対応における課題の抽出と解決策、将来の展望等を論じた報文を広く募集します。

このような背景のもと、持続可能な国内生産を維持・増進し、国民に対し良質な食料の安定的な供給を確保するためには、国内の農業生産の増大・食料自給率の向上は重要であると考えられます。

平成 17 年 3 月に策定された「食料・農業・農村基本計画」においては、食料自給率の向上に向け、国だけでなく、地方公共団体、農業者・農業団体、食品産業事業者、消費者・消費者団体といった関係者が重点的に取り組むべき課題や、関係者の

77巻9号テーマ「地域バイオマスの利活用

多様な地域バイオマスの利活用推進に向けた農業農村工学の貢献」

農業は自然エネルギーと物質循環を利用して資源を生産できる数少ない産業である。わが国の農業を基軸とする産業では、食料自給率向上とともにエネルギーや資源の自給率向上を目指す必要がある。そのため、農林水産業や食品産業などから排出される家畜排せつ物やワラ類の作物残さ、木質材、食品生ゴミなど、多様な形態で存在する動植物由来の有機性資源をカスケード的に利活用して多様なエネルギーや資源の原料とする具体的な技術開発と実用化が期待される。

バイオマスの利活用には、生産・収集から変換、利用に至るまで、多様な要素がある。すなわち、農業生産面から農村の合意形成までの農業農村研究分野を基軸に、システム工学分野、社会システムや経済の社会科学分野、バイオテクノロジーなどの先端技術分野との連携、産学官による協力など、各要素が一

体となり取り組む必要がある。バイオマスの利活用による農業や農村、産業の振興のためには、これらの分野とのマッチングの実現が重用である。

多様な分野との連携において、地域性のあるバイオマスを生み出す農業と農村活動の両面を基軸にもつ農業農村工学分野への期待と役割は大きい。そのため、バイオマスの利活用に当たっては、多様な分野との連携を農業農村整備事業などの制度を活用して図り、農村地域からのバイオマスを持続的に利活用できる技術の導入やシステムづくりが不可欠である。

本特集では、バイオマス利活用の中核となる農業農村工学分野を基本として、国内におけるバイオマス利活用の技術開発と具体的な取組み事例、施策の推進方向やバイオマス利用が成立する社会システムなどに焦点をあてた報文を広く募集します。

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・

「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿下さい。

原稿の長さは、**刷上り2ページ**(4,000字程度)で、写真を1~2枚程度入れて下さい。

私の薦める本は、原稿の長さが写真・体裁等含む**刷上り1ページ以内**(1,200字)で、原稿には表紙の写真を含めて下さい。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering:PAWEES)は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2009年3月末にVol.7, No.1が発刊される予定です。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々から国際学会へ入会されることを望みます。掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)

- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流、情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、年4回無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社(ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000円/年/4冊(送料等学会負担)

学生会員(院生含む) 8,500円/年/4冊(送料等学会負担)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 馬目あて

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>
 入会のお申込は、学会ホームページ <http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm> の「5. APPLICATION FORM FOR

THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたは FAX でお申し込みいただけます。

**国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
 2009年1月から2011年12月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ**

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2009年3月末に Vol.7, No.1 が発刊される予定です。

わが国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界 13 カ国から Editor (14 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI 獲得のために年 4 回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2009年1月から2011年12月までの編集事務局（投稿先）は、台湾になります。

投稿先: Yu-Pin Lin, Ph.D., Professor

Department of Bioenvironmental Systems Engineering National Taiwan University

No.1 Sec 4 Roosevelt Road, Taipei, 10617 Taiwan (R.O.C)

E-mail: yplin@ntu.edu.tw

Tel: +8862 2 3366 3467

Fax: +8862 2 2363 5854

(During Jan.2009 to Dec.2011)

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等 である。

編集体制

• Editor in Chief: Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

Professor Emeritus, Kyushu University, Japan

• Editors 13 カ国から 14 名

• Editing Board 32 名

• Managing Editors

Chief Managing Editor: Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Yutaka MATSUNO

Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

Prof. Dr. Masaru MIZOGUCHI

Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan

Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN) Kyoto, Japan

Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG

Department of Bioenvironmental System Engineering, National, Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

出版社: Springer Verlag 社 (ドイツ)

投稿資格: 筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等: <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

第 47 回畑地灌漑研究集会の開催について (第 1 報)

テーマ「地域の特徴を活かした畑地農業の展開」

技術者継続教育プログラム申請中



畑地整備研究部会では、平成 21 年 9 月 3 4 日の両日、岐阜県内で研究集会および現地研修会を開催します。農業農村工学会会員・非会員を問わず、多数の参加をお願いいたします。プログラムの詳細につきましては第 2 報でご連絡いたします。

1. 開催日

研究集会: 平成 21 年 9 月 3 日 (木) 9:30~17:10

(受付 9:00~)

現地研修会: 平成 21 年 9 月 4 日 (金) 8:30~16:30

(集合時間 8:00~)

2. 場所

研究集会: 岐阜大学講堂

〒501 1193 岐阜市柳戸 1 1

(岐阜駅から岐阜バスで約30分)

☎058 293 2184

現地研修会：郡上市（畑地帯総合整備事業「上野地区」）、白川村（世界遺産合掌造り集落、中山間地域総合整備事業「白川郷地区」）の現地視察

3. 問合せ先

畑地整備研究部会事務局

〒501 1193 岐阜市柳戸1-1

岐阜大学応用生物科学部 千家正照

TEL&FAX 058 293 2877 E-mail : senge@gifu-u.ac.jp

ICID 第5回アジア地域会議における発表論文の募集について（第3報）

2009年12月に、インド・ニューデリーにおいて、国際かんがい排水委員会（ICID）第5回アジア地域会議が開催されます。ICID日本国内委員会では、すでに学会誌1月号、2月号にて上記会議における発表論文を募集しておりましたが、今月号でも再度募集いたします。投稿をご希望の方は、別記の連絡先までご連絡下さい。なお、ご投稿頂いた論文は、ICID日本国内委員会で査読した後に、ICID本部事務局に提出します。

1. 会議開催概要

開催期間：2009年12月5日（土）～11日（金）

開催場所：インド・ニューデリー

2. 発表者募集の対象会議

ICID第5回アジア地域会議

3. 募集テーマ

【会議テーマ】

Improvement in Efficiency of Irrigation Projects through Technology Upgradation and Better Operation and Maintenance（技術改良とよりよい操作・維持によるかんがいプロジェクトの効率改善）

- (1) Supply management including pipe distribution system（パイプ配水システムを含む供給管理）
- (2) Organizational management（組織的管理）
- (3) Demand management（需要管理）
- (4) Irrigated area drainage（かんがい地域の排水）
- (5) Command area improvement, Water conservation, Technology Improvement（受益地改良、水保全、技術改善）
- (6) Legal aspects and gender issues（法律面とジェンダー問題）

4. 参加表明

2009年3月20日（金）までに、テーマおよび論文の著者名をご連絡下さい。

5. 作成要領

要旨と結論（Summary and Conclusion）を450～550ワードの英文で作成し2009年4月3日（金）までにE-mailでご提出下さい。連絡先著者の名字をファイル名としたワードデータ（例：総研太郎の場合、souken.doc）とし、ページ冒頭に論文タイトル、著者と共著者名、所属、各著者の住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレスを記載して下さい（連絡先著者を最初に記載）。

日本国内委員会による査読の結果は2009年4月23日（木）頃までに通知します。また、提出後、要旨と結論がICID本部に受理された場合は2009年5月31日（日）までに通知があります。

詳細は、ICIDのウェブサイト（<http://www.icid.org>）をご確認下さい。

6. 論文の作成

Full Paperの作成要領は、詳細な情報があり次第、発表予定者にご連絡します。なお、Full Paperの日本国内委員会への提出期限は2009年7月31日（金）です。

7. 今後の予定

- ・ICID本部事務局への要旨と結論の提出
2009年4月24日（金）
- ・要旨と結論の受理の公示
2009年5月31日（火）
- ・ICID日本国内委員会のFull Paper締切
2009年7月31日（火）
- ・ICID本部事務局のFull Paper締切
2009年8月31日（月）

8. 論文送付先および連絡先

〒151 0001 東京都港区虎ノ門1-21-17 虎ノ門NNビル

（財）日本水土総合研究所

☎03 3502 1576 FAX 03 3502 1329

担当：小林慶一郎 keiichiro-kobayashi@jiid.or.jp

小澤 洋 hirosi-ozawa@jiid.or.jp